

逗子市まちづくり懇話会議事録より
田村明の「市民」に関わる発言

2019年7月22日

奥津憲聖

3 1986年11月13日

P15 総合計画の策定プロセスについて

中味よりもプロセスが大変重要なんです。プロセスの中にどういう知恵があって、人間が参加意識を持って俺達が少しはやったんだと皆さんにどの程度思えるのか思えないのかっていうプロセスですね。そのプロセスの中で偉い方ばかりではなくて、もっと一般の市民の問題・商店街・職員の問題もそうだけど、どこまで出来るかっていうための色々な手法っていうのは、他でやってみたものもありますし随分私もやったものを使われていますから色々方法はありますよ。そのための方式となると特に逗子の場合は重要で私はプロセス自体が計画だっている感じを持ってまして、どれを重点的にやるのか、私の今言ったようなことを見てやるのか別でやるのか私もわかりませんから、兎に角これを重点にやりたいという逗子方式があるならばそれについてコメント、ご意見もありませんかね。

4 1987年1月16日

P6 不足している公共施設の整備をどう進めていくか

私も、組織を作れとか人を作れとか言うが、私自身の体験からいうとそうではないやり方でやってきている。ここでどういうやり方でやるのか。いろんなやり方がある。

1 2 1988年4月25日

P20 孫文の三民主義（民族主義、民権主義、民生主義）

その民生主義の中にいろいろ書いてあるんだけど、一番重要なのが平均地権という考え方、これはどういうことかという、一口に言うと土地というのは、ある特定の人間のところに多量に行くものではないという考え方なんです。ただ、平均というから文字どおり、じゃあみんなに全部あげて、何分の1かずつ分けるという平均ではないんですね。とにかく一方のところに偏り過ぎちゃいけないという。

1 4 1988年6月28日

P16 富野市長の逗子住民三類型の話を踏まえて

動いている都市というのはこういうふうな3層ぐらいあるんですけども、日本橋だっているんですよ。一番最初の、ある地域社会の中にも、ほかの人たちは大企業だからいけないとかね、そういう社会が。ただ、後のがないだけです。三つ目のはある意味で一番都市的なね。中村さん、何となく言ったんだけどね、一番最初の人は初めから何となく住んでいた。2番目の人は海軍があったりするからね、あるいは別荘とかあるから来た。

本当は、3番目の人は逗子がいいから来ただけですけれども、本当は一番積極的にね。だけれども、もとがないからいろいろ困るわけで、何となくではないんじゃないか。最もある意味では都市的なんです。だから3番目の問題も、1番目や2番目の人もだんだん、そっちの方にどっちかというに移行してくるでしょう。

3 1 1991年4月9日

P35 市民参加で環境管理計画を進めると、具体論になるという問題提起を受けて

あるいはだから、もうちょっと投げちゃって、市民側にやってもらう。行政は行政としてもやっていって、片や片やでやってもらうという方式と、徹底してやればね。

市の補助金を市民側に出して、市民側がコンサルタント雇って。

3 2 1991年5月20日

P42 グランドデザインについて

作業部会をつくるべきである。作業部会というここで言う部会じゃないんですよ。それをつくらなきゃならんですよね。それから市民参加でもっていろんな考え方や何かというのは、部会というのがいいか、僕はもっといろんな人たちに、できるだけこれね、従来の割合以上に市民が入って部会をしてやったらいいと思いますよ。

(富野市長：最終的にはそうですね。)

それから、この我々はいろいろそのことに対して適当に懇談して文句を言うよ。

3 5 1991年9月17日

P49 グランドデザインについて

いやいや、まずだから僕はやっぱりね、逗子方式はグランドデザインをつくるのが市民参加方式でなきゃいかんと思っているわけよ。だから、参加方式だから、ただいきなりがやがやがやがややったほうがいいかどうか、それはちょっとの問題だから、いろんな方法があると思うけど、まずだから開かれているというためには、一番もともになるこれが一応開かれているということで、まずは開かれている。だから、その中でこういう方法で専門家にやってもらった方がいいんじゃないかなと、あるいは専門的な知識がある職員や何かにやってもらった方がいいんじゃないかなということであってね、いきなりがやがやとみんながやってみても、なかなか始まらない。そういう、まず公開されていて、その中で専門家がやっていくという形をとった方がいいんじゃないかという意味なんです。これは公開されているんだから、いいですかね。

3 6 1991 年 10 月 31 日

P12

調査会の性格は、市民参加を討議するための前提条件をつくる。グランドデザインの作成というふうに一応しましょう。期間は3年。

P14

それはちょっと彼（注：計画技術研究所 林泰義）がというよりもね、この構成委員が舵取りをしなきゃいけない話で、彼がじゃないんで、彼をそういうふうにするかどうかということの委員の方の問題ですね。実際、それにコンサルとして協力をするんであって、市民参加のやり方はこういう舵取りにしなきゃいけないというのは、この懇話会でも話をしてもいいし、ここの専門構成委員が考えていくことであって、仕組みがそれで、そういうふうにしてくれるのか、くれないのか。全然くれそうもなければ、これはちょっと困るということですよ。彼のやり方で全部が動いちゃうというんじゃなくて、その逆だと思うんですけどね。

P17

全体でグランドデザインというのは何かをやると、何もしないうちに3年がやがややって終わっちゃうんで、もうちょっと問題を絞ってね。一点ぐらい、もちろんグランドデザイン何かあったらいいんだけども。

P17

それがどういう範囲の市民なのか、どういう市民か、専門委員なのか、さっき言ったもっと広い市民なのか、これまた問題ですよ。初めはだからその専門委員でもいいのかなという気がしてますけど。

3 7 1991 年 12 月 17 日

P24

一つの方法としては、そういうどういうふうな何か家庭（注：仮定？）をね、いくつかのタイプを挙げて、東京に通って、普通の会社にちゃんと勤めていて、やっている人とか、こういう少し自由業で何かやっているようなタイプの人とかね、何とかいうふうなやつが、何か4種類か5種類ぐらいひとつあって…あってとあったって、それ自体変わっちゃうかもしれないんだけど、あるとして、その人たちがどんなふうな生活の仕方を…逗子にはこんなふうな生活の仕方の人が30年先、50年先だかいるという、仮に仮定しないといけないんですよ。だから仮定し得るものがあるって、その人たちの生活の中身をいろいろ考えた場合に、今の車とか何とかが一体どういうことになってくるのかというようなのも、一つの方法かなと思うんですがね。そうすると割合、多少自分との関係があって出る

から、参加しやすい、考えやすいんですね。

P34

市民的に考える場合、今の50年という先が、50年のものを一遍にするというか、そのぐらいの考え方をすると、少し実感がでるんじゃないかな。毎日毎日の積み上げだと、あまりね、まあ10年ぐらいのものかという感じで見るとですね。

P35

僕は多少立場によって違うんでね、ある人にとってはこうだけど、ある人にとってはこうだというのが必ずあるわけだから、それをやっぱり矛盾するいろんな要望、欲望というのをね、競争させるのは逗子においては必要だと思うんだよね。じゃあ、一方だけであって、全然反対の価値観の人は、一向に顧みないと。おまえらが悪いんだというふうには一方的には言えないと思うんですよね。どこかで我慢してもらうにしても、どこかまではそれもそうだよというんでもないかね。

38 1992年2月24日

P38 文化施設の運営について

運営で、市民本位。さっき市民参加があつて、市民本位という言葉、あまり大体好きな言葉じゃないんだけど、どうして市民本位が出てきたのかですね、やっぱり市民参加、前の方もね。やっぱり市民がこの施設がどうできるのかわからないけれども、これからのいろいろなものの運営の中には市民主体というかな、そういうものでやるものも出てきいいんじゃないか。(原文ママ) 例えば岸和田なんかの文化施設は、かなり市民主体の財団をこしらえて、それが運営するというのがあるそうですが、詳しくは知らないけど。つまり、市民本位とか何か、その市民と別にあつてね、行政というのは市民を奉ってうまくやりますから、しかし俺たちに任せてくれという感じなんでね、ちょっと言葉が悪いんで、それこそ市民ですね。だから俺たちに任せておけ。意味合いが強くてね。だから、そういうのではなくて、それから市民の方にも、さっき言った矛盾を解消していくために、むしろもっと主体的に自分たちがやらなきゃいけない。

42 1992年11月6日

P17 市民参加の必要性が日本で言われるようになって30年

日本のシステム全体が議会制民主主義がそれに反対していた。一番大きな理由は議会があつた。議会が市民を代弁しているんだ。それを何で市民が言う必要があるのか。形こそが市民である。制度上で地方自治法に一応されているじゃないか。その俺たちの権利を奪うかというのが、これ議員さん全部のね。だから政党と政党の何とかという争いじゃなくて、議会の民主主義というのをほとんどまだ理解されてない。だから議会は議会であつ

て、戦前型議会に近いものだったわけですね。それでもう大騒ぎ、大騒ぎして、この次のときに4年たったときの1967年の選挙のときに市民参加型の自治体をつくるか、それとも中央直結型をつくるのが争点になって、それでほとんど市民参加型を訴える人が勝っちゃったわけで、それでいわゆる革新と言われている。別にその後は革新であろうとなかろうと、それを早く実践的に取り入れた人が進んで首長さんになっているわけですね。

P18 市民参加について言われるようになった

ただ、自治法の方はね、基本計画というものに沿って、議会で決めるというのが一応入ってはいるわけです。しかし、その辺のね、議会とだから市民との関係、それと直接選挙の首長、この三つ巴がね。でも、やっぱり体制的には僕はものすごく変わったと。本当に相当な田舎に行ったってね、やっぱり、言葉はいろいろ言うけれども、随時参加、当たり前でしょうし、言葉としてはね。だから、それをどうやっているかというのは、実際、中身はあけてみればさ、ちょっとこれでどうかなというのが、そのことは非常にたくさんありますよ。しかし、とにかく言うことだけは言うようになったと。

P34

だから、専門家の役割というのは、僕はだからある特定の問題を決めたときはいいんだけど、やっぱりその将来的な見通しとかね、目標設定的なものとか、それから違う価値がぶつかり合うところとか、それはあまり向いてないんじゃないか。むしろ市民参加の方が向いている。今度、市民参加というのは、じゃあ市民参加と一口に何でもいったら、何でもないけどというふうな意見が対立するけど、対立をどこかで出して解消するという仕掛けがないと絶対うまくいかないから、目標設定的なところではね、いろいろな意見が対立するけど、対立をどこかで出して解消するという仕掛けがないと絶対うまくいかないから、目標設定できるところではね、いろいろな意見がぶつかり合うだろうけど、一応誰でも話はできるわけですね。ただ今度、それをどういう、目標がいいとして、どういうふうにやっていくかというのは、これはやっぱりね、素人じゃちょっとわからないし、手に負えないし、これはやっぱりね、問題、別に専門家にお任せする以外なくなっちゃう。だから、ごく今度身近なことになると、これまたね、市民参加というその役割が、うんと大きなところと、うんと小さなところと、中間はこれね、ちょっと手に負えないと思いますよね。だから、大きなところのグランドデザインは、むしろその目標設定的な意味のあれだったら、市民参加できるし…いや、できるもいったって、けんけんがくがくとなるかもしれないけど、それにこそ意味があって、それにしておかないとだめなんじゃないか。

P48 市民参加の拠点

やっぱり僕は市役所の中にもあった方がそれはそれであってね、ランドデザインのものは、やっぱりそういうところに、だって材料をいつも、常時おいてあるそういう場所をね。それはそれで置いてあって、次の次元のいろいろある。2次元、3次元、多次元的にやった方がいい。

4 3 1993年2月12日

P12 市長交代と委員の任期

特に全員同じだから、あまりその辺は問題ないんですけどね、しかしやっぱり、もし変わってくるといことであると、じゃあ残っている方どうするのかというのが当然出てくるわけですね。じゃあ自動的にやめちゃいますというか、実はやりたかったんだと言う人がいたら、どういうことになるのかということになりますので、その辺は市長がかわったからといって、一々そういう行政というのは変わらないんだから、行政継続性の原則ですからね。でも、もちろん政策的に変えてもいいんですよ。変えたっていいんだけど、政策的に変えるというのと、行政的に一貫性と別ですから。行政継続性はやっぱりね、どういう施政であれやっぱり、これも市民自治のうちですからね。

P16 市民自治の中でもやっぱりね、市民自治だとか市長選挙だとありますので、公選でそれによって市民の意思を反映して、交代が可能であるというのが市民自治の原則ですから、それはそうなんですよね。それで行政、これ全部ひっくり返っちゃうと問題があるから、やっぱりそれは継続していくというのが原則になっている。行政の方がたくさんおられますよね。政策は変わってくるかもしれないけれど、行政は継続して、政策は変わりつつ、行政の中身は変えないということでしょうね。

P33 私としてもね、総合性を持たないと、本当の市民自治が達成できない。市民の要求なり市民の生活の、何も何省がどうだとか、何法がどうだとか、専門家の何が何学部がどうだとか関係ないわけですよ。要するに自分たちの生活をトータルにどうやってよくするか。もちろん個々には問題は出ますけどね。結局それは全部につながっている。

4 4 1993年3月29日

P43

皆さん方が指摘されるような逗子のね、特色あるところで市民自治のまちの次は市民の役割、行政の役割なんですよね。役割というのはただのタイトルにすぎない。このところ、もっと意味がある、市民参加、何とか出さなくちゃね、ちょっと意識としてね、本当に意識しているのかなと、この書き方は。役割じゃないはずなんです。そうしたら、みんな上の方はね、それなりに意味をもう少し持っている。ここだけ、ばかにね、目次にな

っちゃったなんていう、目次だけじゃつまらない。その次にいって、やっとな、中身があらわれるでしょう。この段階で目次じゃなくて、もうちょっとはっきりした意味がある、目次としても意味がある目次が出るべきですね。だからその辺のところは、やっぱりまだ市民自治がまあまあ、まだ進行中ですから、永久に進行中でいいんですけどね。

以上